

米国 総合・コアともに安定継続(15年10月消費者物価)

2015年11月18日(水)

～中・短期のインフレ圧力は抑制されたまま～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

消費者物価 (Consumer Price Index)

	消費者物価				エネルギー	食品	住宅	アパレル	運輸	医療	商品 コア	サービス コア
	総合		コア									
15/03	+0.236	(▲0.1)	+0.227	(+1.75)	+1.1	▲0.2	+0.1	+0.5	+1.1	+0.3	+0.3	+0.2
15/04	+0.103	(▲0.2)	+0.256	(+1.81)	▲1.3	▲0.0	+0.2	▲0.3	▲0.3	+0.7	+0.1	+0.3
15/05	+0.445	(▲0.0)	+0.145	(+1.72)	+4.3	+0.0	+0.0	▲0.5	+2.7	+0.2	▲0.1	+0.2
15/06	+0.319	(+0.1)	+0.179	(+1.76)	+1.7	+0.3	+0.2	▲0.1	+1.0	▲0.2	▲0.1	+0.3
15/07	+0.132	(+0.2)	+0.132	(+1.80)	+0.1	+0.2	+0.2	+0.3	+0.0	+0.1	▲0.1	+0.2
15/08	▲0.071	(+0.2)	+0.074	(+1.83)	▲2.0	+0.2	+0.2	+0.3	▲1.3	+0.0	▲0.1	+0.1
15/09	▲0.153	(▲0.0)	+0.211	(+1.89)	▲4.7	+0.4	+0.3	▲0.3	▲2.3	+0.2	+0.0	+0.3
15/10	+0.200	(+0.2)	+0.202	(+1.91)	+0.3	+0.1	+0.2	▲0.8	+0.1	+0.7	▲0.1	+0.3

(注) 括弧内は前年同月比

**10月の総合は前月比
+0.2%、コア指数
(コアインフレ)は
前月比+0.2%**

15年10月の消費者物価(総合)は、前月比+0.2%と3ヵ月ぶりの上昇となり市場予想と一致した。食料品が同+0.1%(前月同+0.4%)と減速したほか、エネルギー・食品を除く消費者物価(コアインフレ、コア指数)が同+0.202%(市場予想同+0.2%)と前月の同+0.211%から小幅鈍化した。一方で、エネルギーはガソリン、電気の上昇により前月比+0.3%(前月同▲4.7%)とプラスに転じ、全体を押し上げた。

コアインフレを商品(財)とサービスに分けると、商品価格がドル高の影響もあり前月比▲0.1%(前月同+0.0%)と小幅下落した一方、サービス価格は同+0.3%(前月同+0.3%)と同率となった。

財では、医療品が前月比+0.2%と上昇に転じた。一方、衣服(前月比▲0.8%)、新車(前月比▲0.2%)、中古車(前月比▲0.3%)などが下落幅を拡大したほか、TV・ゲームなどの余暇商品(同▲0.1%)、自動車部品・装備(同▲0.9%)が下落に転じた。サービスでは、変動の大きいホテルの宿泊費が前月比+0.8%(前月+0.8%)と高い伸びを続けたうえ、航空料金がこれまでの下落の反動等を受け前月比+1.5%(9月▲0.1%)と上昇に転じた。また、医療サービスは、病院・同関連サービスなどの上昇によって前月比+0.8%と加速した。一方、帰属家賃(前月比+0.2%)、賃料(前月比+0.3%)が控除項目になるエネルギー価格の上昇により鈍化した。さらに、需要の強い自動車保険が同▲0.2%とこれまでの高い伸びの反動もあり一時的にマイナスとなった。

コアインフレのモメンタムは抑えられたまま

コアインフレのモメンタムをみると、10月は3ヵ月前対比年率+1.7%(前月+1.7%)、6ヵ月前対比年率+1.9%(前月+2.0%)と低い伸びにとどまっており、短・中期でコアインフレの上昇モメンタムは低く抑えられている。

**前年比では、10月の
総合指数が+0.2%、
コア指数は同+1.9%
と安定**

前年比での10月の消費者物価動向をみると(以下、前年同月比)、総合が+0.2%(前月+0.0%)と市場予想の同+0.1%を上回った。食料品が+1.6%(前月+1.6%)と抑えられるなか、エネルギーが▲17.1%(前月▲18.4%)と原油価格などの下落幅を

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

縮小した。コア指数は+1.9%（前月+1.9%）と市場予想に一致した。帰属家賃、家賃、自動車保険などの上昇により押し上げられている。また、より実態の物価動向を示す連鎖CPIコアも+1.6%（前月+1.6%）と、低位で安定している。

F R Bが重視しているP C Eコアデフレータは、C P I統計よりも帰属家賃の影響を受け難いことから、10月も前年同月比+1.3%と低い伸びにとどまり、F O M C参加者のインフレ予測の下限（10－12月期前年同期比+1.3%）を維持すると見込まれる。

